

教育理念	一 真理の探究 一 自他の敬愛 一 責任の完遂
学校教育目標	1 現代社会におけるグローバル化・情報化の進展や産業技術の発展をふまえるとともに、生涯にわたる人間形成の基礎を培い、多様な科目を開設して生徒の個性を伸ばさせる。 2 将来の職業選択を視野に入れた進路設計への自覚を深めさせ、社会の変化に主体的に対応できる心身ともに健康な人材を育成する。 3 マンツーマン指導を基本として、個々の生徒の興味・関心・能力・適性及び進路等にきめ細かく対応し、それぞれの希望する進路実現を支援する。
中期目標	(1) ライフプランを確立させ、第一希望で進路実現させ得る組織的な学校づくり (2) 十分に体系化されたキャリア教育のシステムによる「生きる力」を育成する学校づくり (3) 授業等の様々な学習活動を通じて、健康な心身と体力を育成する学校づくり (4) 地域社会と連携し信頼される、開かれた学校づくり (5) 知識の確実な定着と実践的思考力を養う、魅力ある授業の研究 (6) 特色ある系列と進路実現に有効な科目選択の研究
今年度の重点目標	① 生徒の進路実現に向けた学力向上への取り組み ② 生徒一人ひとりが達成感を得ることのできる学校づくり ③ 地域社会と連携した、開かれた学校づくり ④ いじめや体罰のない、安心安全な環境の確保
総合評価	
<p>・全体的には目標達成ができたと思われるが、生徒支援、進路指導では今後もさらに改善が必要な点も見られた。保護者、生徒アンケートの意見なども活かし安心安全な環境ができるよう学校運営をしていきたい。</p> <p>・シリゼミ、シオジリ学など地域との関わりを深めることができた。出張講義、中学校訪問、体験入学、公開授業などで中学校との連携を深めることができ、本校の魅力をアピールできた。</p> <p>・生徒一人ひとりの進路実現に向け、進路学習やキャリア教育、教育課程の見直しを行うことができた。来年度以降も知識の定着思考力の向上を目指したい。</p>	

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
教務	1 生徒が生き生きと学校生活に取り組み、確かな学力と豊かな人間性を身につけられるよう、他部署との連携を図り、円滑な学校運営を行う。	①②③	ア 月歴・日課等の周知徹底 イ. 授業研究・授業公開等の推進・サポート ウ. 各種研修の推進・サポート	A	・円滑な学校運営ができた。・業務の簡略化、行事の見直しが必要。・授業公開の一層の充実	・引き続き円滑な学校運営を心がける。業務の簡略化を目指す。
	2 本校の教育内容とその成果を積極的に中学校、保護者、地域に発信し、地域に信頼される学校作りに努めるとともに、意欲的に本校を志願する生徒が増えることを目指す。	②③	エ. 公開授業および体験授業の充実 オ. 中学校訪問および中学生への広報活動の充実 カ. Webサイトの活用 キ. 入学者選抜(前期選抜)の改善と中学校への周知	A	・体験授業に多くの中学生が参加した。・中学校訪問、広報紙の発行を新たに始めることができた。・前期選抜の見直しをした。	・公開授業の充実、広報紙の発行、中学校訪問の実施等で本校の特色の周知に努める。
進路指導	1 職員間で情報を共有し、各部署と連携しながら体系的・組織的に指導できる体制を整える。	①②	ア 進路意識の向上、基礎学力の定着を図るため、各部署と連携してより効果的な取り組みを考える。 イ 模試・スタディポートの結果を全職員で共有し、学習指導に生かす。 ウ. 職員向け研修会を実施する。	A	・1,2年合同がイガッスの実施。・模試結果を全職員で共有。意欲的に模試を活用したい。・職員研修会の実施。	・今後も高大接続改革の動きを全職員で共有し対応していく。
	2 進路実現に向けて自ら積極的に行動できる生徒の育成を図る。様々な資格試験の受験を奨励する。	①②	エ 補習授業(桔梗塾を含む)、各種検定に積極的に取り組む生徒を増やす。 オ 早い時期から意欲的に学習する集団作りの形成。 カ 定期的に進路通信を発行し、進路意識の啓発に努める。	A	・夏季補習の受講者が増え、講義場所の確保に苦労した。・勉強クラブの発足。活動の輪を広げたい。・模試、英検受験者の増加。	・模試や検定など具体的な目標をもたせ、継続的な学習ができるように工夫する。
生徒支援	1 「対話と共感」、「自立と支援」の生徒指導 ①基本的な生活習慣の確立 ②服装・頭髪等の身だしなみを整える ③携帯・スマホ利用に関する注意喚起 ④交通事故の未然防止	②③④	ア. 職員の共通理解と意識を統一し、生徒への声かけを大事にする イ. 家庭との連絡や相談、スクールカウンセラーの有効活用などで生徒や保護者を支援する。 ウ. HR担任、教科担任、生徒会、クラブ顧問との連絡を密にし、生徒個々の動向を明確に把握できるようにする。	B	・生徒動向を職員間で共有し、多くの目で見守りながら生徒支援に努めた。 ・盗難が多く発生していることは問題である。注意喚起や見回りで対応した。	・引き続き情報共有を密にし、全職員で生徒支援に努める。 ・貴重品の管理を徹底させる。全職員での見回りを実施する。
	2 いじめを出さない学校づくり ①いじめに対する未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を組織的に取り組む ②常に開かれた相談態勢を整える	②③④	エ. 学習、行事、生徒会、クラブ活動を通して、学校生活の積極的な意義を見出すよう指導援助する。 オ. 交通安全指導を折りにふれて行ない、生命を尊重し安全を確認して行動する習慣を確立させる。	B	・アンケート等の活用により、いじめの未然防止に努めた。支援が必要な生徒には、各部署で連携をとり対応することができた。	・各種アンケートや講演会を継続実施し、生徒の意識啓発に努める。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
キャリア教育推進	1 社会の変化に対応したキャリア教育を行う。	①②③	ア. 三年間の体系的な計画を立て、各学年ごとに適切な指導ができたか。 イ. 生徒が将来の目標達成に向けて主体的に活動できるよう、段階を追って活動の場を設けることができたか。	A	今後の社会の変化と、現状の反省を踏まえて、1,2年生の「科目選択」指導の見直し、1年生の「産業社会と人間」の学習内容の変更などに取り組んだ。	「産業社会と人間」の学習内容の一層の充実と、2年のキャリアプランニングの学習内容の見直しを進める。
	2 多様な進路希望に対応した科目選択の体制を整える。	①②③	ウ. 生徒が希望する進路に向け、適切な科目選択の体制を整備することができたか。 エ. 生徒の科目選択状況の点検・確認の機会を作り、適切な助言を与えることができたか。 オ. 職員間で生徒の学習状況、進路希望などの情報を共有し、適切なアドバイスすることができたか。	A	「科目選択」のスケジュールに「ゆとり」をつくり、生徒が悩み、考え、相談する時間を増やした。進路カルテの導入により、職員間での情報共有をしやすいとした。また、外部講師による進路講演会を複数回実施し、進路・科目選択のための情報を得る機会を増やすこともできた。	進路指導係と連携し、一人の生徒を多くの職員でサポートできる態勢作りを進める。
	3 地域と連携し、将来構想を考える。	①②③	カ. 他校総合学科と連携することができたか。 キ. 積極的に地域との関わりを持ち、連携事業を行うことができたか。 ク. 本校の将来構想について計画的な取り組みができたか。	A	総合学科の全国大会や合同課題研究発表会などに生徒や教職員が参加し、学習成果を発表することができた。県内だけでなく、全国の総合学科高校とも情報を交換することができた。	今後も交流の機会があれば、積極的に活用し、他校との連携を進める。
生徒会	1 生徒会活動に参加することで、生徒相互の豊かな人間性を育てる。	②③④	ア. 学校生活の中で行える様々な生徒会活動を通し、生徒相互の関わりを強くすることで、コミュニケーション能力の向上を図る。	A	各種行事の中で、クラス、クラブ内での支え合いが生まれ、生徒間のコミュニケーション能力は向上された。代議員による部活動継続審議を行なうことで、生徒自身が学校活動を変えられることができる事を知ったと思われる。しかし、自由参加型の春季、クリスマス、冬期発表会では観客が少なく、他のクラブ活動に対する興味関心の薄さを感じられた。今後は、他人に支えられている事の理解から、感謝の気持ちを芽生えさせお互い様精神を持たせることが課題である。	各種生徒会活動の成果発表や、生徒活動の内容を視覚、聴覚的に表現する。
	2 生徒自らが自覚と責任を持って主体的な活動が行えるように支援する。	①②④	イ. 明確な目標を持たせ、立案、企画運営を行わせる事で、リーダーとしての資質を向上させる。	A	「志学愛」というスローガンを掲げ、生徒が主体的に新企画を立ち上げた。様々な活動を企画、運営することでリーダーとしての自覚を持たせることはできた。しかし、企画終了後その意識が薄れていく生徒がいた事が反省点である。	企画の立上げから片付けまでを計画通りに行う事。卒業までが役員であることの自覚を持つ事。これらを身につけられるように支援していく。
図書・視聴覚	1 図書館運営の充実を図り、生徒及び職員の利用・利便性の拡充に努める。	①②③	ア 図書館利用（貸出数・レファレンス数）の活性化が図れたか。 イ. 生徒の図書館活用、授業での図書館利用の拡充。 ウ 図書委員会による広報活動を通じて、読書に対する関心を高める。	A	・先生による講話、手芸講座を通して、生徒、先生の図書館利用の拡充を図ることができた。	・総合研究での活用のため、より図書資料の充実を図りたい。
	2 視聴覚機材の活用を通して、授業等での学習指導の支援を進める。	①②④	ア 視聴覚教室の教育活動への利用拡大を図る。 イ. 芸術鑑賞の円滑な運営を行う。 ウ 芸術鑑賞を通して、豊かな心を涵養する。	A	・視聴覚室、資料を活用した授業に資することができた。芸術鑑賞では生徒の積極的な参加が見られた。	・視聴覚資料に機能面での遅れが見られるので、更新して活用を進めたい。
	3 校舎内外の美化・清掃の強化	①②	ア. ゴミの分別と減量化・生徒の取り組みの強化	A	清掃美化係の正副委員長と協力して。全校生徒に働きかけながら校内外の美化に努めた。	ゴミの減量化に向けて、更なる取り組みを模索していきたい。
保健厚生	2 検診のスムーズな運営と性教育・薬物教育の充実	①②③④	イ. 保健委員会と職員の協力体制を確立する ウ. 外部講師の精選と教育方法の研究をする	A	検診は保健委員と協力しスムーズに行うことができた。講演については、充実した講話を設定できた。	色覚(2年希望者)貧血検査(1年全員、2・3年希望者)を加えたい。講話は継続したい。
	3 職員厚生の充実	②③④	エ. ストレスの軽減とリフレッシュ行事の推進	A	多くの先生方にご参加いただいた。ニュースポーツに関する講話も受けた上で体験ができ、充実していた。	大勢が参加でき有意義な形で行事を継続できるように、内容を吟味していきたい。

部署別重点目標

部署	今年度重点活動(評価項目)	重点目標	到達目標(評価の観点)	評価	成果と課題	改善策
渉外	1 学年・学級PTAの充実	②③	ア 総会・学年・学級PTAを開催する イ 授業参観や講演会の企画を行う	B	多くの先生方のご協力で計画通り実行できた。総会への積極的な呼びかけがやや欠けた。	日程については教務、学年、学級と検討したい
	2 PTA活動参加拡大に向けた広報活動の充実	②③	ウ PTA研修旅行に向けた広報活動に努める エ 寄せ植え研修会を開催する	A	寄せ植えは多くの参加者のもとの計画を上まわった。研修旅行は日程を配慮した方が良かった。	研修旅行は職員への参加しやすい日程で考えたい。
	3 保護者との連携強化	②③	オ 大会出場生徒(北信越開会以上)への活動助成 カ 強歩大会への援助トン汁提供	A	トン汁提供は好評で目標を上まわった。天候の急変も考え弾力的に対処したい。クラブ助成は県大会以上。	雨天急変への対応

1 学年	1 基本的な生活習慣の確立	①②	ア 家庭との連絡が密にとれたか。 イ 安定した生活のリズムをつくらせることができたか。	B	・日頃から家庭との連絡をとることが出来た。遅刻する生徒は少ないが、体調を崩す生徒が見られた。	・毎日のSHRで生徒の体調を把握し、生徒への声がけに努める。引き続き家庭との連絡を密にする。
	2 学習習慣の確立	①②③	ウ 家庭学習の習慣化に向けてはたらきかけができたか。 エ 学習意欲を高めさせ、科目選択への意識付けができたか。	A	・家庭学習時間の計画・調査を行い、生徒自身への意識付けが出来た。校外模試対策の補習などを行い、学習意欲を高めた。	・全生徒への学習意欲を更に高め、2年次の授業に向けての意識付けを行う。
	3 相互理解を深める	②③④	オ 互いに尊重し合える関係が築けるようにアドバイスできたか。	A	・学校行事においてクラス内での活動を通して、仲間意識を深めることが出来た。	・生徒にとって学校が安心できる場であるように、あらゆる場面において、今後も注意深く見守る。
2 学年	1 進路意識の高揚	①②③	ア 学習意欲を喚起できたか。 イ 資格取得への積極的なアプローチができたか。 ウ 個別に、学力・生活状況に応じた相談、助言ができたか。 エ 手帳を活用し、生活習慣の意識付けができたか	A	・模試や資格取得試験を積極的に受験する生徒が増え、受験に対する意識が高まってきた。また、手帳を活用することで時間の使い方や学習状況を見直し、生活改善ができた生徒が増えた。	・模試の事前事後指導に一層力を入れ、各自の進路に合わせた個別指導をおこないたい。手帳活用についてはさらに指導を続けたい。
	2 研修旅行の充実	②③④	オ 労働を考えるきっかけを与えられたか。 カ 平和学習の充実が図れたか。 キ 相互理解を深め、協力・協同体制がとれたか。	A	・事前事後学習により、充実した企業見学や平和学習ができた。集団行動の大切さや楽しさを再認識できた。	・今年度の反省を来年度に引き継ぎたい
	3 コミュニケーション能力の向上	③④	ク 互いに尊重し合える関係が気づけるようにアドバイスできたか。 ケ 家庭との連絡が密に取れたか。 コ SSTなどを学級経営に取り入れることができたか。	B	・普段から生徒との対話を大切にし、家庭との連携は密に取ることができたが、SSTを全クラスでおこなうことはできなかった。	・SNSの誤った使い方が人間関係トラブルを招くということを引き続き指導したい。またSSTをLHRで取り入れたい。
3 学年	1 進路実現への指導、支援体制の充実	①②③	ア 学習意欲の向上、資格取得へのアプローチが図れたか。 イ 個性や適性などに応じた進路指導ができたか。 ウ 受験準備など計画的に活動できるように支援できたか。	B	・年間の計画に則り進めることはできたが、個別の受験計画への支援はもっとできたかもしれない。	・正担任だけでは、個別の進路に対応できる限度がある。進路係や副担任を含めた体制づくりが必要。
	2 学校生活の充実と最上級生としての活動支援	①②③④	エ 学校行事、生徒会行事において責任ある活動ができるように支援できたか。 オ 規範意識の向上、社会性が身につけられたか。	B	・係、学年、担任などの呼びかけにより、指導を繰り返したが、まだ不足した部分もあった。	・学校全体で歩調を合わせる意思統一が必要。